

寺阪 尚悟 選手・西堂 久俊 選手の紹介

てらさか しょうご
寺阪 尚悟 選手 (20歳) 背番号 **37 DF**
ニックネーム しょうご

兵庫県出身、両親と兄と妹の5人家族で育った。神戸市立下畑台小学校時代につつじヶ丘ファミリーサッカー部でサッカーを始め、市立桃山台中学校時代からヴィッセル神戸U-15で本格的にサッカーに取り組んだ。中学3年の時に全国ジュニアユース大会に出場し、準優勝を果たしヴィッセル神戸U-18に進んだ。2年生の時にトップチームの練習に参加し、古橋亨梧選手が寡黙に自分の仕事を確りする姿に感動しいずれあんな選手になりたいと思った。

今年8月にJ1のヴィッセル神戸から期限付き移籍で加入し、FC岐阜を勝ち上げるべく奮闘中である。2023年にヴィッセル神戸U-18からトップチームに昇格し、7月から今年1月までFC琉球に期限付き移籍をしていた。FC岐阜でのデビュー戦はプロ初ゴールを決め、サポーターに強烈な印象を与えた。8月25日ホームでのYS横浜戦に左サイドバックで出場。3連敗で迎えた試合は何としても勝ちたい一戦であった。プロ初ゴールはセットプレーからヘディングシュートでゴールを叩き5対1で勝利した。その後9月28日ホームでのツエーゲン金沢戦で、北選手からのコーナーキックを見事にヘディングシュートで決めて1対0で連敗を4で止めた。見事な仕事ぶりによるチームへの貢献振りである。どこにそんなパワーがあるのかインタビューで判ったことは、181cmの身長に81kgの体重に加えて、訓練による体幹の強さによるものだった。体幹に対する絶大な自信と、屈託なく笑顔でサラサラ受け答え出来る清々しい性格によるものだと感じ入った。現在はアパートで自炊生活だが、仲間との食事や時々来てくれる両親との外食も楽しんでいる。岐阜県は住みやすく、環境も良く、生活面で全く問題なく過ごせている。普段は練習に集中し、オフは外出をあまりしていないが彼のストイックな姿が、これからの試合に向けてどんな活躍と貢献が見られるか、大いに期待している。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU

にしどう ひさとし
西堂 久俊 選手 (23歳) 背番号 **65 MF**
ニックネーム ひさ

千葉県市原市出身。市原市立辰巳台東小学校時代は三井千葉SC(現：ヴィットーリアスフットボールクラブ)に所属した。市原市立辰巳台中学校時代は同ジュニアユースでサッカーを習った。今の自分の特徴はミッドフィルダーとしての突破力と推進力にあり、それらは私立船橋高校時代の厳しい監督の指導のお陰だと感謝している。その後、早稲田大学スポーツ科学部に進学しサッカー部に所属した。2年生時にリーグ戦で明治大学と優勝争いをして惜しくも2位になったが、怪我もなく多くの試合に出場出来て、これまでで一番充実した年であったと思っている。またデンソーカップの選抜チームに選ばれ、多くの同世代の仲間達と知り合う機会になり、今も大勢と繋がっている。大学4年生の時に1部リーグから2部リーグに降格したことが心残りとなった。小中高校時代は両親も一人息子の試合の応援に頻繁に来てくれてとても感謝している。

昨年2月にJ1のFC東京に加入し、7月にJ2のジェフユナイテッド千葉に期限付き移籍をした。今年1月からJ2の鹿児島ユナイテッドFCに期限付き移籍の後、8月からFC岐阜に期限付き移籍で加入した。岐阜は落ち着いた街で住みやすくとともに気に入っている。趣味は読書で小説、啓発本も多く読んでオフ時間を充実させている。クラブの試合運営にはたくさんのイベントがあり観客も大勢で感謝している。自分の性格は明るく楽観的でフレンドリーな為、友人は多く、組織に溶け込むのも早い。FC岐阜のチーム環境は良く、チームムードも明るく、サポーターも熱く、実力ある選手が大勢いて今のJ3ポジションにいるチームでないと思っている。今後失点しない改善や多彩な得点力の継続などのチーム挙げての努力と個人的な能力アップをもっと能動的に実行していけば、必ず昇格するチームと信じて自分も貢献できるように頑張りたいと話した。



写真：©Kaz Photography/FC GIFU